

やまもり通信 vol.92

いよいよ本格的な冬の到来です。
Xmasにお正月、豆まさetc.年末年始は行事も目白押し。
家族や親しい人と一緒にほっこり鍋を囲みながら
お家でのんびりするのもいいですね。



【加子母の風景】冬の明治座。去年は暖冬だったけど、今年は雪が積もるかな?



やまもり
yamamori

こちら
彩都 やまもりです

【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26
【お問い合わせ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)



やまもりHP

やまもりfacebook

「2024 岐阜ふるさと祭り」が無事終了しました!



今や地域のお祭りとして定着しつつある「岐阜ふるさと祭り」を今年も10月19日(土)、20日(日)の2日間、彩都やまもりで開催いたしました。1日目はあいにくの空模様でステージイベントが一部中止になったものの、2日目は秋晴れの良い天気に恵まれ、朝から大勢の来場者でにぎわいました。

40ものテントが会場いっぱいに張られた場内は五平餅やイワナの塩焼き、みたらし団子に飛驒牛コロッケといった岐阜のグルメを楽しむ人、栗きんとんやはちみつ、美濃焼など岐阜の名産品を買い求める人、ワークショップを楽しむ人で一時長蛇の列ができるところも。

ステージでは地域の子供たちのかわいいダンスや大学生の迫力ある書道パフォーマンス、愉快なマジックショーに大道芸、ママさん吹奏楽の素敵な演奏が会場を沸かせたほか、さるぼぼ(高山市)やげろぐる君(下呂)



市)、かっぱの河太郎(揖斐川町)、おがっきい(大垣市)や郡上良々ちゃん(郡上市)、かしまん(中津川市)のご当地ゆるキャラも登場して、子供たちと一緒にダンスを踊ったり、写真を撮ったりと祭りを盛り上げてくれました。

今回の岐阜ふるさと祭りには抽選会用の景品を提供してくださった自治体や出展業者さんも多く、おかげで抽選会場ではより多くの方に岐阜の特産品を持ち帰っていただくことができました。ご協力いただきました各自治体・業者の皆様、本当にありがとうございました。

これまで10月に開催していました「岐阜ふるさと祭り」ですが、来年は11月1日(土)、2日(日)に開催します。また来年、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



【現在のギャラリー情報】

12月13日以降のギャラリー内容は未定。決まり次第HPやfacebook等でご案内します。

『大阪樟蔭女子大学生書展』を開催しています。

【期間】11月27日(水)～12月4日(水)…3年生「仮名の書」

12月5日(木)～12月11日(水)…2年生「ろうけつの書」



『岐阜の冬の風物詩(仮称)』を紹介いたします。

【期間】12月13日(金)～令和7年2月5日(水)(予定)



【イベント情報】

年末恒例「ミニ門松づくり」を開催します。

今年も早いものあと1ヶ月。毎年人気の『ミニ門松づくり』を開催します。
【日 時】12月22日(日)
①9時半～②11時～
③13時～④14時半～
【定 員】各回3組(1組1個)
【料 金】1500円
【申 込】12/5(木)から電話のみで受付開始
072-739-6046 彩都やまもりまで
【場 所】彩都やまもり敷地内



『筆文字アート体験教室』を開催します。

2か月に1回開催している大山ゆい先生を講師に招いた筆文字アートの体験教室
【日 時】1月23日(木)
10:00～12:00
【参加費】3000円
(材料費込み・飲物付)
【定 員】5名
【場 所】彩都やまもり「加子母子屋」
写真は前回1月開催時の作品

地芝居スタークリー



2024年は、國民文化祭が岐阜県開催
と「一つ二こともあり。

「地芝居・伝統芸能アスティバル」が

ありました。例年の公演に加え、
各地で様々な催しがめじろおし、
我が「かしま明治座」でも
「加子母歌舞伎」だけでなく、
「獅子芝居公演」もありました。



期間中、県内で30以上も地芝居が
公演され、それらがスタークリーの

対象になりました。私も普段なら行かない
遠方の芝居小屋まで足をのばせて、樂しかった
です。

本間希代子 絵描き・イラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して25年目。古楽器奏者の夫と娘と
日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ手箱 <http://tebakojp>

関西発会活動けいじ板

法人部会定期懇親会開催

岐阜ふるさと紀行催行

大阪岐阜県人会・法人部会の定期懇親会
を8月5日（月）、大阪市梅田の「華中華ハイ
ビスエント店」で17人の参加で開催しました。
岩崎雅明会長（株）いわさき・社長）の開
会挨拶、寺岡龍彦顧問（大阪岐阜県人会・
会長）の乾杯で懇親会が始まり、各テーブ
ルは四川料理に舌鼓を打ちながら会員同士
の近況報告などで懇親、交流の輪を広げま
した。



山川弘保郡上市長

のではないか」とかなり踏み込んだ話があ
りました。

最後に会員同士がもっと気軽に集合、参
加し意見交換できるサークル活動の開催な
どの提案がありました。

宿泊地の高山グリーンホテルでは上田和史
副市長のお出迎えがあり、秋の高山祭など
の魅力を楽しみました。

第82回 子どもの手習い



加子母の二代目御山守内木彦七が残
した『御山方御用井所持日記』から、江
戸時代の加子母生活を紹介しています。
今回は、「尾張藩の林政と森林文化」
でもから大人へ一江戸時代の「かしま
生活③」の中から、子どもたちのお勉
強の様子を。

「らむう」「やまけ」つてなん?

明和5年（一七六八）2月23日の日記に「夕
方孫太郎にらむう、友次郎やまけ清書致さ
せ申也」と書かれています。「らむう」「や
まけ」ってなんでしょう。他にも亀太郎に「よ
たれの手本」「あさき手本」を渡したとも
あります。分かった方はいるでしょうか。
ヒントは明和9年（一七七二）2月14日
にありました。「九つじろ（12時頃）、九十
郎いろは清書持ち来る。この節亀太郎も來
たり、二人にちりぬる手本相渡し、筆一本
づつくれ遣わす。「いろは」に「ちりぬる」。
そうです。これらの平仮名は「いろはにほ
へとちりぬるを…」と続くいろは歌を区切
つたものだつたんです。

ヒントは明和9年（一七七二）2月14日
にありました。「九つじろ（12時頃）、九十
郎いろは清書持ち来る。この節亀太郎も來
たり、二人にちりぬる手本相渡し、筆一本
づつくれ遣わす。「いろは」に「ちりぬる」。
そうです。これらの平仮名は「いろはにほ
へとちりぬるを…」と続くいろは歌を区切
つたものだつたんです。

手習いの様子

江戸時代の学習といえば寺子屋が有名で
すが、日記からは彦七の孫や親族の子ども
が、彦七から文字を習っていた様子がみら
れます。大体8～9歳頃、父母などが彦七
にお願いして手習いを始めたようです。
一番最初に渡すのが「いろは」のお手本。
子どもたちはもらつたお手本を見ながら自
分で練習を重ね、清書をしたためます。そ
して下呂への「飛騨の旅」として企画しま
した。



高山市上田和史副市長

参加者は14人と少し寂しいのですが、進化、
発展する「ふるさと岐阜」の魅力を肌で感
じPRするのも県人会活動の大きな役割と
なりました。

最初の訪問地郡上では山川弘保市長がご
多忙の中、昼食会場に駆けつけてくださいり、
の言葉をいただきました。



その後、市長公室の三島宏治課長らの案
りました。

最後に会員同士がもっと気軽に集合、参
加し意見交換できるサークル活動の開催な
どの提案がありました。

合同新年会の開催案内

来年の大阪岐阜県人会と関西岐阜県人
連合会の合同新年会は左記の通り開催し
ます。

【日時】

2025年（令和7年）
2月17日（月）午後6時～8時

【場所】新大阪ワシントンホテルプラザ
詳細は改めてご案内します。

ご参加を心よりお待ちしています。

参考文献：『子どもから大人へ江戸時代の「かしま生活」③』
高木まさか 菅田翼也著 徳川林政史研究所発行

不真面目な子も 真面目な子も

ほとんどの子どもは真面目に手習いをし
ていますが、おそよの長男友次郎はあま
りにもやらないので父の藤吉に叱られ家を
飛び出してしまった事があります。夕方ま
で見つからず、おそよが心配して彦七に八
卦占いを頼むことに。すぐ見つかるという
いたんですね。

書かれています。

他の子も、手習いを雑にやつて次の手
事がもらえなかつたことも。彦七は優しい
が、彦七から文字を習っていた様子がみら
れます。大体8～9歳頃、父母などが彦七
にお願いして手習いを始めたようです。
一番最初に渡すのが「いろは」のお手本。
子どもたちはもらつたお手本を見ながら自
分で練習を重ね、清書をしたためます。そ
して下呂への「飛騨の旅」として企画しま
した。



会員の高齢化などで参加者の減少が気
がかりな「岐阜ふるさと紀行」ですが、
県人会ならではの企画で来年以降も出来
るだけ継続していく予定です。会員の皆
さん、ご家族、友人などにも声をかけて
頂き出来るだけ多くの方に参加いただけ
るようお願いします。

最後の訪問地は、市の今井寛司観光課
長、熊崎一彦施設長そして鶴見昌己市会
議員（神戸岐阜県人会副会長）の待つ下
呂温泉合掌村。施設内をベテランのボラ
ンティアガイドの愉快で軽快な案内で見
学し、昼食休憩の後無事帰路に着きました。

会員の高齢化などで参加者の減少が気
がかりな「岐阜ふるさと紀行」ですが、
県人会ならではの企画で来年以降も出来
るだけ継続していく予定です。会員の皆
さん、ご家族、友人などにも声をかけて
頂き出来るだけ多くの方に参加いただけ
るようお願いします。

参考文献：『子どもから大人へ江戸時代の「かしま生活」③』
高木まさか 菅田翼也著 徳川林政史研究所発行